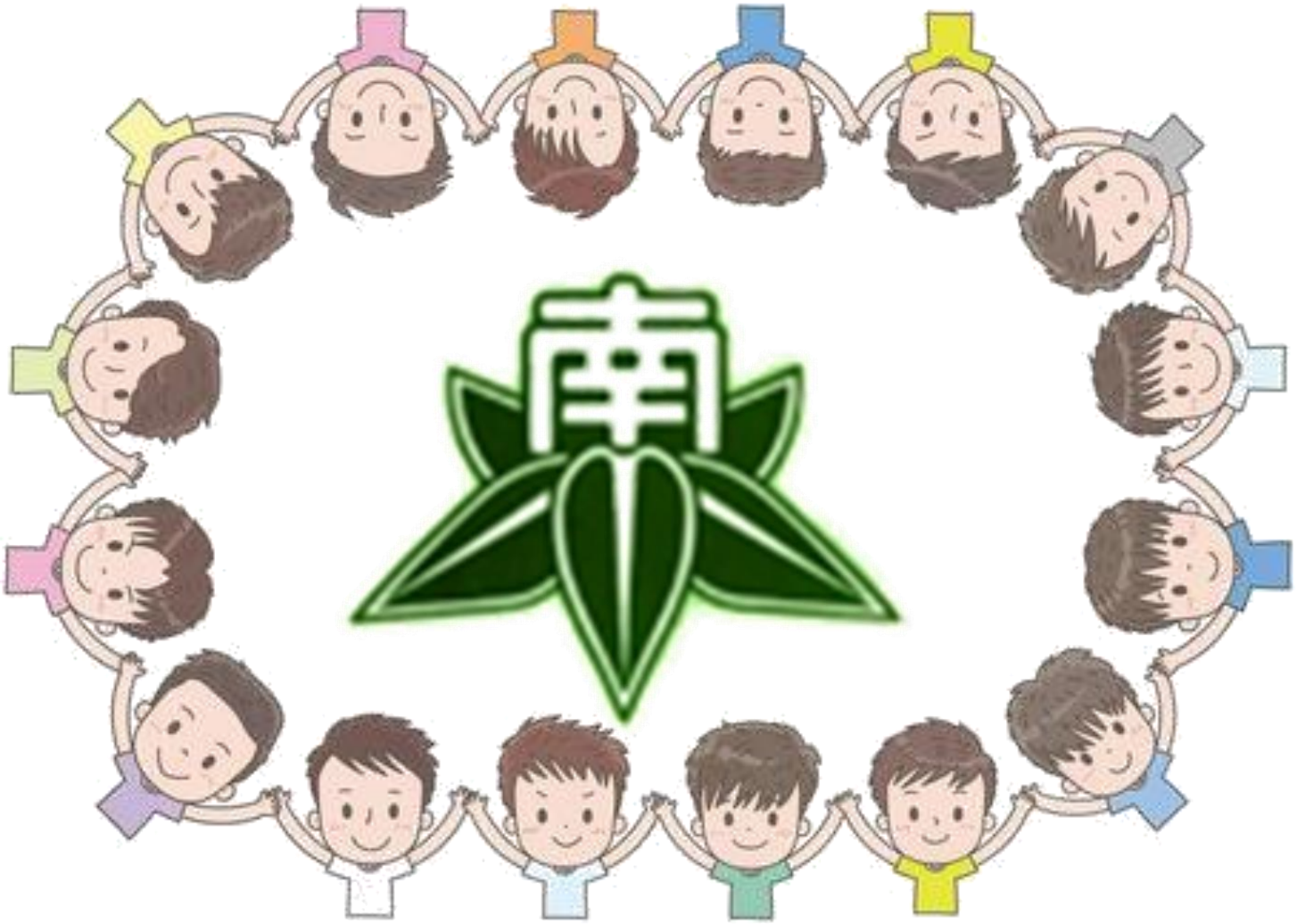
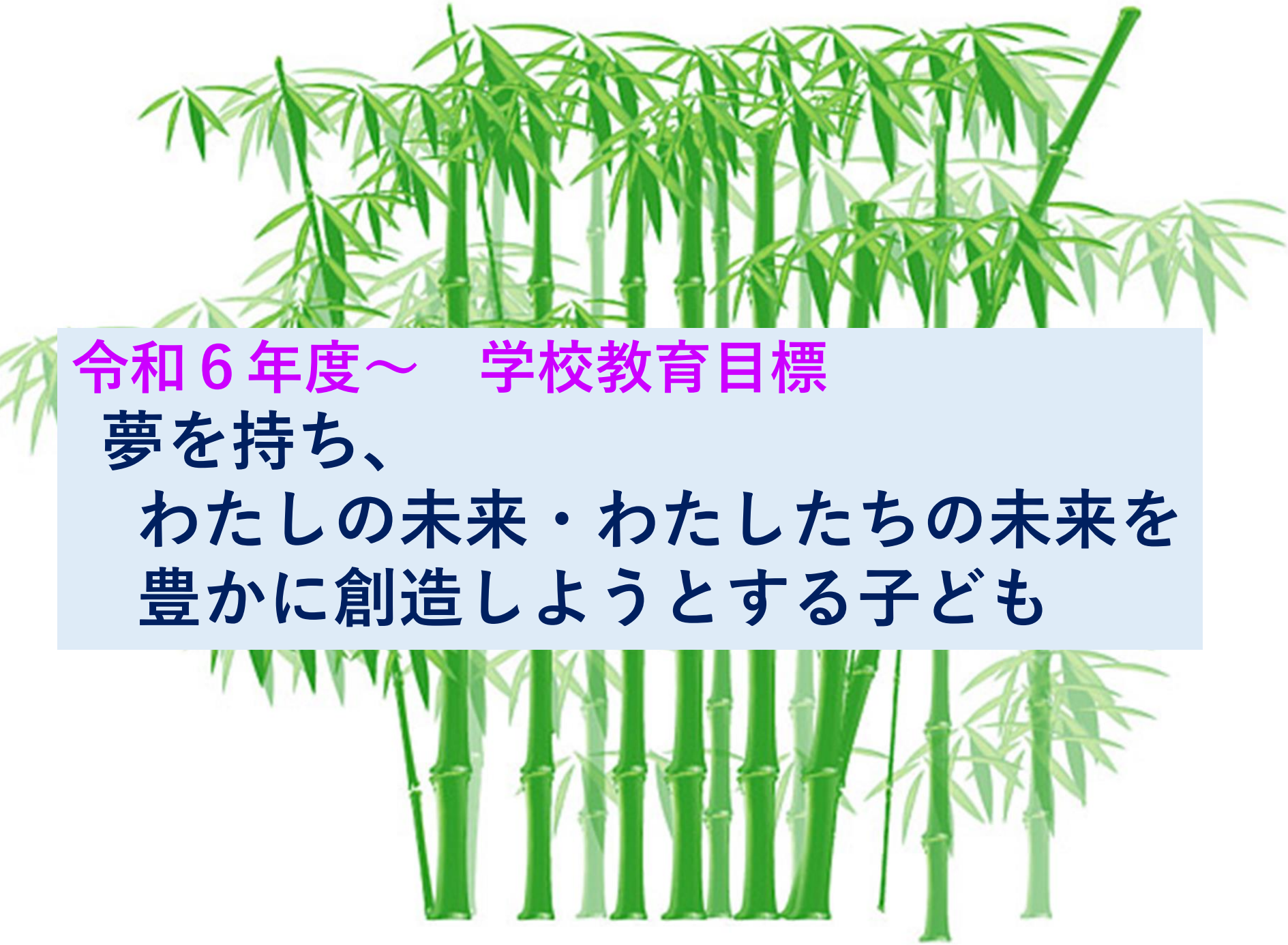


令和７年度　山形市立南小学校
学校教育グランドデザイン



令和６年度～　学校教育目標

夢を持ち、
わたしの未来・わたしたちの未来を
豊かに創造しようとする子ども

令和７年度　山形市立南小学校教育目標及び経営方針

学校教育目標

夢を持ち、わたしの未来・わたしたちの未来を豊かに創造しようとする子ども

夢をもつ

「すき」を重ねる
「自分のやりたいこと」と「みんなにとってよいこと」を問い続ける

わたしの未来の創造

自分を見つめる
自分をつくる

わたしたちの未来の創造

他者、集団、社会とのかかわりをつくる

山形市立南小学校　育成をめざす資質・能力

Ⅲ 各教科で育成すべき資質・能力

竹の枝葉のようなもの　　しっかり枝葉を広げることにより、１本の竹、そして竹林として成長する。

◎ 各教科等の学習指導要領解説による

Ⅱ 学習の基盤となる資質・能力

竹の節のようなもの　　節があることによってしなやかで強くなり、高く伸びることができる

(1)言語能力　言葉によって、感性・情緒を表現したり、感情をコントロールしたり、思考を深めたりする力

(2)メタ認知　知覚・記憶・学習・思考することを、より高い視点から認知する力
（自己をモニターし、自己評価したり、コントロールしたりする力）

(3)問題発見・目標設定能力（知性の発達成長のもととなる「疑問」「不思議」を、問題発見・目標設定につなげる）

(4)問題解決・目標達成能力（解決や達成のための仮説を設定する → 実践 → 評価 → 仮説の再設定）

(5)情報活用能力　情報機器の操作や適切な情報活用力　情報モラル

※「失敗してもOK」⇒「失敗」を問題発見・目標設定能力で生かす

Ⅰ 生きる支えとなる資質

竹の根のようなもの　　根をしっかり伸ばし、他者とつながることで倒れなくなる

(1)「すき・あこがれ」「やってみたい」がある⇒感性・感動・欲求の主体化
美しさや心地よさを感じる感性とともに、自分の好きなこと・あこがれ・やりたいことがあり、それをめざそうとする

(2)人(他者)は自分を支え、自分も人に貢献できていると感じられる⇒共生への志向

(3)自分のよいところも悪いところもあるがままに受け入れ、自分を大切な存在として感じられる⇒基本的自尊感情

令和7年度　山形市立南小学校　育成をめざす資質・能力

Ⅰ　生きる支えとなる資質

竹の根のようなもの　　根をしっかり伸ばし、他者とつながることで倒れなくなる

（1）「すき・あこがれ」「やってみたい」がある⇒感性・感動・欲求の主体化

自分が感じる美しさ・面白さ・心地よさ（感性）や、やりたいこと（欲求）をはっきりもっていて、それを目指すとき、人は自由と喜びを感じる。多少の困難があっても乗り越えていこうとする。
「やりたいこと」は、小さいときだったら、「こんな遊びをしたい」「こんなおいしいものを食べたい」ということになる。（五感を含め身体を十分使うことが重要）
子どもは興味があれば、行動する。自発性そのもの。遊びはとても大切な要素である。
人の成長発達の原点は、興味を持つか持たないか、遊びを存分にするかしないかから始まる。
自然に生まれた遊びが、身体を通して知性と感性を刺激し面白味となり、更に知的興味となり、「探究」につながる。

成長につれて「遊び」に対しても、「価値があるものか」という問いが立ち上がる。
「自分のやることは、みんなにとってよいことなのか、みんなが喜んでくれるものか」
⇒自分自身への問い
「自分のやりたいこと」と「みんなにとってよいこと」を問い続けることが「自分の生き方の軸」をもつことになる。

「『遊び』と『学び』をつなぐ」ことを重視
特に低学年の生活・音楽・図工・体育には「遊び」の領域が深く関わっている。
高学年であれば、さらに総合的な学習や児童会活動などがも「自分の生き方の軸」の育成に直接的につながる

令和7年度　山形市立南小学校　育成をめざす資質・能力

Ⅰ　生きる支えとなる資質

竹の根のようなもの　　根をしっかり伸ばし、他者とつながることで倒れなくなる

（2）人（他者）は自分を支え、自分も人に貢献できていると感じられる

⇒共生への志向（人間関係形成能力・社会形成力）

人間関係は、悩みの元にもなるが、生きる喜びや幸せも人との関係の中でしか得られない。
人との関係を避けようとしていては、幸せになることはできない。
他者が「敵」に見えるか、それとも「仲間」に見えるかで、人生は大きく変わる。
信頼できる大人との承認関係が土台となり、「仲間」としてとらえることができるようになる

アドラー　　生きていく上で大切なこと
○　「他の人の目で見て、他の人の耳で聞き、他の人の心で感じる」ということ
○　他者は私を支え、私も他者とのつながりの中で他者に貢献できていると感じられること

このような人への関心は、ともに集団や社会をつくりあげる力の土台となる
⇒「どんなふうに自分は生きていきたいか」
「どんな社会を自分たちはつくっていけばいいのか」
という問いにつながる

人に関心をもつように支援する

自分にしか関心がない子どもは、人の発言や行動を見ても、どうしてそのような行動をするのか意図を正しく理解できない。

「他の人の目で見て、他の人の耳で聞き、他の人の心で感じる」ような場面を意図的に設定する

令和7年度　山形市立南小学校　育成をめざす資質・能力

Ⅰ　生きる支えとなる資質

竹の根のようなもの　　根をしっかり伸ばし、他者とつながることで倒れなくなる

（3）自分のよいところも悪いところもあるがままに受け入れ、自分を大切な存在として感じられる　⇒　基本的自尊感情

基本的自尊感情…成功や優越とは無関係に自分のよいところも悪いところもあるがままに受け入れ、自分を大切な存在として尊重する感情

「生きていていい」、「このままでいい」、「これ以上でも以下でもない」、「自分は自分」と無理なく自然に思える、絶対的で無条件の感情

身近にいる信頼する人と体験と感情の共有を繰り返すことによって、少しずつゆっくりと、薄紙をのり付けしながら重ねていくようにして形成され、しっかり固まると容易には揺らがない程、強くなる。

社会的自尊感情を支える役割を果たし、人生における挫折や困難を乗り切る原動力になる感情

一緒の体験をする(成功体験も失敗体験も共有する)

→成功したときは一緒に喜び、失敗した時は一緒に悔しがる。失敗したときに叱ったりすると基本的自尊感情を醸成できない。次にどうすればいいのかを共に考える。

社会的自尊感情…他者からほめられたり、認められたり、成功体験を積んだりすることによって高まる感情で、他者との比較に基づく相対的な優劣による感情

周囲からほめられる、見つめられることで風船のように大きくふくらむが、失敗したり、叱られたりすると、すぐにしぼむ。社会の中で自らの評価を求めて生きる欲求を持つ私たちにとって欠かせない感情であると同時に、成功が要求され続ける感情

令和7年度　山形市立南小学校　育成をめざす資質・能力

Ⅱ　学習の基盤となる資質・能力

竹の節のようなもの　　節があることによってしなやかで強くなり、高く伸びることができる

(1)言語能力

「言語能力の向上に関する特別チームにおける審議の取りまとめ」より

１．知識・技能

〇言葉の特徴やきまりに関する理解と使い分け

・音声、話し言葉　　・文字、書き言葉　・語、語句、語彙　　・文の成分、文の構成

・文章の構造（文と文の関係、段落、段落と文章の関係）

など

〇言葉の使い方に関する理解と使い分け

・話し方、書き方、表現の工夫　　・聞き方、読み方

２．思考力・判断力・表現力

テクスト（情報）を理解したり、文章や発話により表現したりするための力

【創造的・論理的思考の側面】　〇情報を多面的・多角的に精査し、構造化する力

【感性・情緒の側面】〇言葉によって感じたり想像したりする力、感情や想像を言葉にする力

【他者とのコミュニケーションの側面】　〇言葉を通じて伝え合う力

【考えの形成・深化】　〇考えを形成し深める力

３．学びに向かう力・人間性等

〇　様々な事象に触れたり体験したりして感じたことを言葉にすることで自覚するとともに、それらの言葉を互いに交流させることを通じて、心を豊かにしようとする態度

〇　自分の感情をコントロールして学びに向かう態度

令和7年度　山形市立南小学校　育成をめざす資質・能力

Ⅱ　学習の基盤となる資質・能力

竹の節のようなもの　　節があることによってしなやかで強くなり、高く伸びることができる

（2）メタ認知

メタ認知の「メタ」とは「高次の」という意味
認知(知覚、記憶、学習、言語、思考など)することを、より高い視点から認知すること
メタ認知は、何かを実行している自分に頭の中で働く「もう一人の自分」と言われる
1.メタ認知的知識
　認知作用の状態を判断するために蓄えられた、課題、自己、方略、についての知識
2.メタ認知的技能
　メタ認知的知識に照らして認知作用を直接的に調整するモニター、自己評価、コントロールの技能

例：授業後に数分間時間をとり、ふりかえりを書かせる
「今日の学習でよく分からなかったところや分かるようになったところについて、『自分の頭の中や心の中の変化を振り返って』詳しく書こう。」と指示する
≪効果≫
・自分が何を学習したのかがわかる　　・自分が何を身につけたのかがわかる
・どうしてまちがったのかを振り返ることができる
・どうしてうまくいったのかをふり返ることができるようになる　　・次の学習で生かすことがわかる
・次に自分の学習したいことを考えるようになる　　・　自分の成長がわかるようになる

Ⅱ　学習の基盤となる資質・能力

竹の節のようなもの　　節があることによってしなやかで強くなり、高く伸びることができる

（3）問題発見・目標設定能力　※知的好奇心

幼児は興味を引かれた物に対して「不思議だな」という素朴で単純な感情や疑問が起こる。知性の大切な芽生えである。それが限りなく「あれは何か？」「どうしてなのか？」「何故なのか？」という単純質問へと成長し知的行為されるようになる。自然発生的に抱いたこれらの単純な感情と疑問を言葉で表現した姿である。

聞いた言葉の概念を集約するという、思考判断の回路と、言葉の拡大による概念の吸収蓄積とが激しく機能する時機が到来する。言葉の存在によって初めて抽象化する事が可能。

不思議さや疑問を言葉に置き換える回路を持ち概念を持ち始めて人間へと成長していく。そして言葉で分り合うという知的共有の文化が形成されていく。それが理解であり、「分かった」という知的満足を味わうようになる。

⇒疑問は知性の発達成長に欠かせない基礎的要素

学校生活の様々な場面で「疑問」「問題・課題」を価値づける

・授業における友達や教師の話で疑問やわからないことをそのままにしないで、質問する。

・学級、学校生活、行事などで問題になっていることを取りあげたり、興味のあることに目標を設定したりして取り組みを促す。

・「自分づくり」における自己理解と「ありたい自分」の模索

・授業における課題解決学習、探求学習

令和7年度　山形市立南小学校　育成をめざす資質・能力

Ⅱ　学習の基盤となる資質・能力

竹の節のようなもの　　節があることによってしなやかで強くなり、高く伸びることができる

（5）問題解決・目標達成能力（仮説設定→実践→評価→仮説の再設定）

問題発見・目標設定をしたら・・・

（5）問題解決・目標達成能力（仮説設定→実践→評価→仮説の再設定）

解決・達成に向けて、試行錯誤しながら粘り強く
「仮説設定→実践→評価→仮説の再設定」
を繰り返す。

※　各教科で育成を目指す資質・能力（知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力、人間性など）が活用されるようになることが、「すぐれた問題解決者」を育てることになる。

令和７年度　山形市立南小学校　学校教育について　　R7.4.1　職員会議資料

Ⅰ 生きる支えとなる資質を育むために

※丁寧な見取りと対話による子ども理解を土台とした教育活動の展開
①美しさ・面白さ・心地よさに浸ったり、没頭したりする教育活動（五感・身体を使った活動）
②遊び・生活の中の「不思議」「なぜ」等の問いを活かした教育活動 「プレイフル・ラーニング」
③生徒指導の４視点をふまえた教育活動
（自己存在感の感受、共感的な人間関係の育成、自己決定の場の提供、 安全・安心な風土の醸成）

Ⅱ 学習の基盤となる資質・能力を育むために

※　全ての教育活動で、意図的・計画的に育成する
①　ていねいに聞く（言語能力の育成の土台は「聞く」）
・小さい声でも聞こうとする姿勢を育てる
（「聞こえないから、もっと大きな声で…」からの脱却）
安心して言語表現を試みることができる場を保障する
・わからないとき、もっと知りたいときは質問する→「おたずね」
②思考・感情・感覚の言語化
③「問い」を立てることを大切にする
④「自分づくり」「学級・学年・学校づくり」の推進
⑤「失敗してもOK」⇒「失敗」を問題発見・目標設定能力で活かす

Ⅲ 各教科の資質・能力を育むために

※教科の本質
①有意味学習
②オーセンティックな学習
③明示的な指導
教科の本質を踏まえた上で
⇓
※自己決定的学習
①順序選択学習
②課題選択学習
③課題設定学習

読書活動の推進 （学習指導部）	人間関係形成・社会参画・自己実現を図る特別活動（学習指導部）	キャリア教育の推進 （教務部）	体づくり （健康指導部）
● 国語授業における並行・発展読書 ● 日常的な読み聞かせの実施 ● 音読　詩の暗唱 どのように読むのが詩の世界を表現することになるのか、ということを大切に暗唱する。	● 自発的、自治的な活動が効果的に展開される児童会活動 （児童会目標を受けた委員会活動） ● 豊かな文化を創造することを通して、集団への所属感と貢献意識を醸成する。	● 「ありたい自分・なりたい自分」になるための取り組みを支援する。 （目標設定・アプローチの検討・自己評価）を支援する。 ● キャリア・パスポートの有効活用	● 遊びから運動の楽しさへ（運動遊びの充実） ● 自分の体の状態についての言語化 ● 体育指導におけるリズムダンスの重点化（学級・学年・学校文化に）
情報教育の推進 （学習指導部・健康指導部）	**「いのちの教育」の推進 （生徒指導部・健康指導部）**	**自分の学びを自分で設計する （学習指導部）**	**歌声づくり （学習指導部）**
● 情報モラルを系統的に養うための実践 ● 情報リテラシー ● 依存への対応	● 自然・社会体験を通して、生きていることを実感する ● 心を通わせる言葉を育てる →構成的グループ・エンカウンター ● 失敗体験の価値づけ ● 危機回避能力の育成	● 個人総合について対象学年及びネーミングの検討 （事前・事後学習を丁寧に行い、夏休みの課題として取り組む）	● 歌声づくりの日常化 ● どのように歌いたいかを共有する ● 朝会では、実際に歌う時間を大切にする。歌唱指導は、なるべく学級・学年で行うようにする

教育活動の方針・重点活動をふまえて、低学年は生活科、中学年は総合的な学習、高学年は総合的な学習＋特別活動を中心にしたカリキュラム・マネジメントを！

地域連携

〇日大山形との交流　（陸上部・水泳部との交流）
〇吹奏楽部指導ボランティア（令和７年４月１日現在で８名のボランティアの方から指導いただくことが可能）
〇読み聞かせボランティア
〇言語活動の充実のための研修　山形大学　教授　三上英司　先生
〇特別支援教育、不登校についての教育相談　山形大学 准教授 川村先生による月１回教育相談
〇市立図書館の活用